

(別添3)

【野々市市】 校務 DX 計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育 DX を推進する際に取り組みることが望ましい項目を実現するため、本市において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1. FAX・押印の見直し

教育委員会と各学校や事業者とのやりとりにおいて、FAX を活用するものは限られているが、一部業務において、FAX でやりとりされている業務が残っている。緊急連絡や FAX の方が効率的な場合を除き、原則、FAX でのやりとりの廃止に向け、検討を進める。

また、押印の見直しについては、特に必要のあるものを除き押印を廃止する方向である。

2. 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力の一掃

本市では新入学児童生徒のデータ提供を行っている。そのデータを基礎として、教務・保健・学籍・成績と幅広い業務で利用するよう勧めていることから、手入力となっている学校についても提供しているデータの活用を勧め、手入力の一掃を図る。

3. クラウド環境を活用した校務 DX の積極的な推進

本市では、全校で保護者連絡アプリを統一し、教職員と保護者間の出欠連絡や学校からの配布文書等をデジタル化した。保護者連絡アプリと校務支援システムの連携を促進することで、教職員の負担軽減や業務の迅速化を図る。

教職員については、1人1人に業務用のメールアドレスが付与されており、外部との連絡に利用している。また、学校間及び市教委との共有フォルダをクラウド上に作成していることから、データでの共有を促進する。

研修・会議資料のペーパーレス化は大部分がデジタル化されており、今後、調査・アンケートについても、汎用クラウドツール等の利用を推進することにより、集計作業の短縮化やデータの利活用に繋げる。

4. 次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

教職員の働きやすい環境を実現するために、ロケーションフリーやゼロトラストの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策が備えられたシステム構築や、事務効率化のために、汎用クラウドツールが連携されたシステムを検討する。